

研究会



コレクティブ ハウジング の挑戦

欧米で発展してきたコレクティブハウジングは、住居に関する日常的仕事を居住者が分担・協働し、管理に居住者の民主的参加がある賃貸住宅です。日本の団地のような画一的な間取りではなく、多世代の居住者が共に協力し、食事作り(コモンミール)など生活の一部を共同化することで、効率的でより豊かな新しいライフスタイルを創りだす住宅の運動が、長い時間をかけて広がっています。

日本でもようやくそのような取り組みが始まり、今年6月には東京都荒川区東日暮里にコレクティブハウス「かんかん森」が誕生しました。2003年7月26日の研究会では、足掛け3年をかけてこのプロジェクトを推進してきたNPO コレクティブハウジング社の宮前真理子副理事長にコレクティブハウジングを巡る内外の状況と、日本での今後の展望についてお話を伺い、討議を行いました。

コレクティブ ハウジングの挑戦



宮前真理子 (NPO コレクティブハウジング社)

コレクティブハウジングという新しい住まい方を、何とか日本の中に「選択肢」としたいなと思って活動をしています。ちょうどNPOができて2年過ぎ、3年目に入ったところになります。後ほどお話しますが、私たちにとっても第一号で日本でも初めてと思われるのですが、日暮里に賃貸のコレクティブハウス「かんかん森」が6月にオープンしております。

コレクティブハウスというのをお聞きになったことがある方はおられるでしょうか？ご存知ない方も多いと思いますが、大体「何だろう？」と言われるのがいつもの始まりなんですね。コレクティブハウスは現在も北欧で盛んな暮らし方です。スウェーデンやデンマーク、オランダというところと、アメリカにも移植されて「コウハウジング」という呼び名で見られます。世界的にすぐ流通しているような住まい方ではないわけですが、簡単に歴史をお話します。

コレクティブハウジングの歴史

18世紀ごろ、工業化が進んだ時代に労働者の労働環境が非常に悪くなっていきました。そこでロバート・オーエンのような人々

が「こういう労働環境をもっとよくしよう」としたことが根っこにありまして、本当のスタートはユートピア社会主義の思想の中から出てきた、ということのようです。労働者も上流階級と同じように生活文化や教養の面でも豊かになっていかなければならない、というのがユートピア思想ということだったわけですが、イギリスだけでなくフランスでもシャルル・フーリエなどがこのような発想で労働者階級の暮らしの改善を唱えています。

とにかく住宅をちゃんと整備しようということがあり、労働をしやすいように1ヶ所で共同で食事を賄ってしまい、どちらかというより機能的・合理的に働けるようなスタイルとしての「家」ということで事業主側の賛同も得られるような形で進められてきました。極端な話でいうと飯場(はんば)のようなものができたということだと思います。

そういう中でも1900年くらいに入るところから、ヨーロッパではモダニズムの潮流が広がり、工業化に適した住宅ということで、様々なバリエーションが出てきました。初期は工場で働くのは男性だけ、というスタイルで住まいが作られていましたが、

女性も働くようになる中で、女性だけの家を要求するようになっていったという経緯があり、シングルの女性だけが住む家や母子だけが住む家というのも1900年ごろには出てきていたそうです。

スウェーデンのコレクティブハウス

私たちコレクティブハウジング社理事長の小谷部(日本女子大教授)はスウェーデンの住まい方を研究しています。スウェーデンでは1930年ごろに初めてコレクティブハウスというものができます。それは、女性も「外で働く人」で家事労働はしないということで、セントラルキッチンというメインのキッチンがあり、そこで注文してダムウェーターで届けてもらう。食後には皿洗もしないで、そのまま下膳してもらう。だから住宅とはいってもキッチンもなく、機能主義住宅という形だったわけです。女性も男性も差がなく働きますので、結構女性の支持は高く、こういう住まい方を望む女性は多かったようですが、それほどたくさんは流通していませんでした。

1950年くらいになると、事業主側がファミリーホテルという名前でこういうハウジングを供給するという例が出てきて、本当にホテルのようにメイドさんがいて掃除もやり、料理はセントラルキッチン、洗濯はクリーニングのサービスを受けるという形のコレクティブハウスが、かなり(20棟300戸)できたということです。ここまでのスタイルは、「クラシックモデル」と分類されていて、いわゆる家事労働をサービスで賄う「サービスタイプ」です。

セルフワークモデルへの転換

ところがこういったことをやっていくうちに、やはり子供の教育といった家庭の中で受け渡ししていくものが希薄になっていったり、様々な問題が起こって来ました。同時に、自分の暮らしを手作りしたいという希望は常にあるわけで、問題が顕在化していきました。1970年頃に学生運動や改革の動きが世界的にあったわけですが、その時にスウェーデンでも「コミュニティの中で一緒に暮らそう」という運動が起こりました。自分たちの手で料理も作り掃除もし、但し共同で個々にやるよりもう少し合理的にそれをやっていこうという運動です。それを「セルフワークモデル」と呼んでいます。

そういう運動を経て1980年代にコレクティブハウジングはセルフワークモデルとしてスウェーデンでも普及しました。その時に大体60棟くらい建ち、後でスライドで見えていただくものにも、当時からのものが多数あります。

ですから、セルフワークモデルのコレクティブハウスというのは、それほどヨーロッパ中に広まっていませんし、ごく一部の方たちの暮らし方ということです。でも



やはり「重ね合わせる」部分を持つことで、一人とか小さな家族では持てないような豊かさや合理性も持てるということで、日本でもそういうものが選択できるもののひとつになればいいということで、私たちは活動しているというところがあります。

コレクティブな暮らし方は、合理的なことと理想的な家を両立できないか、というユートピア思想から始まって、途中で工業化と共に合理性の方だけ追求するものと、理想を追求するものに分かれたのですが、1970年～80年頃にまたそれを両立できないかということに戻ってきた、という経緯があって、今は合理的でかつ豊かな理想的な住まいとを目指しているわけです。コミュニティというものが日本でも重要視されながら、上手く育ってっていないという現状で、こういう活動を知っていただくことで何か暮らしのヒントになっていけばいいなと思っています。

日本のコレクティブハウス

日本では「神戸のコレクティブ(ハウス)」というのをお聞きになったことがあると思いますが、これは阪神・淡路の震災後にできた高齢者コレクティブと呼ばれていまして、「ふれあい住宅」とも言われています。独居老人の方が孤独に亡くなるということがたくさんあったため、共同でごはんを食べるスペースがあることがいいのでは、ということで県営や市営の住宅に導入され20棟くらいできています。ただ、施策住宅になってしまったので、なかなか自主運営・自主管理というわけにはいかず、いろいろ問題をはらんでいるという形ではあります。日本にコレクティブという形が普及したのはこの住宅の影響ですが、一方でコレクティブを

高齢者住宅として行政などが捉えるようになったという側面もあります。私たちはコレクティブを高齢者住宅とは考えておらず、子育てにもとてもいいと思っていますし、多世代で暮らすことのひとつの住まい方として進めてきています。

スウェーデンでの視察から

去年の8月に、日暮里のプロジェクトの住まい手3人を含め、私たちNPOのメンバーでスウェーデンへ視察に行きました。その時に撮ってきた比較的と新しいスライドをご覧ください。

1) これはどなたかの家のテラスです。一人でも豊かで皆といても豊かだと、両方を両立しようということで、コレクティブにお住まいの方はこうして自分の場所もきめ細かに手を入れている方も多くて本当にきれいな住まいが多かったです。

2) これは、スウェーデンの街中で、ストックホルムは昔のお屋敷がまだ残っているところがたくさんあります。日が長いので皆さんカフェのようなところでこうして楽しんでいます。

写真3)

3) これはあるコレクティブの庭です。こういう庭の共同管理というものもほとんどのハウスのメニューに入っています。この維持管理を自分たちをするというのがコレクティブの大きな特徴で、小さいお庭でもガーデニングをしていらっしやいます。

写真4)

4) これは、私たちのメンバーがゲストハウスに泊めていただいて、5日間インターンシップということで一緒にクッキングやガーデニングをさせていただいた「フェルドクネッペン」というコレクティブハウスです。全部で58戸くらいの住戸があり、40歳以上で学齢期のお子さんがいない方のみのちょっと特殊なハウスです。ですから小さいお子さんはいないのですけれども、お孫さんがたくさん遊びに来ていたりして、大変にぎやかなところでした。

5) これは、公営住宅の一角にあるハウスで、70戸以上の戸数がありますが、共同のクッキングに参加している方たちはその内の30軒くらいだそうです。全体でやる予定だったそうですが、なかなか合意が図れず、30件くらいが行っているそうです。

6) この左側にあるのが、新しい再開発ゾーンにある居住権分譲の公営住宅です。その一部分にコレクティブが入っています。

7) これは、次の週のクッキングを分担する居住者が集まって打ち合わせをしているところです。1週間をこのくらい的人数で受け持って、週5日間の夕食を創っているところが多いです。大体、食べるのは自由なんですけど、担うのは全員が担うということになっていて、予約を入れて食べるハウスもあれば「だいたい30食だね」といって作ってしまうラフな運営をしているところもありました。このハウスでは1日前までに予約をしておくというスタイルでやっていました。

クッキングは5日間あるので2人ずつが当番で、毎日この人数でやっているわけではなく、2、3人で30人分くらいを作ってしまいます。ですからそんなにしょっちゅう当番をしているわけではありません。ここは比較的高齢ですが、男女とも全員働いているそうです。

写真8)

8) こういうメニューです。ハンバーグみたいなものですね。あとはサラダやパンが出ます。

9) いくつかいろいろなハウスの台所をお見せしますが、こんな風に柔らかい感じでありながら機能性の高い調理器具が用意されていることに驚かされました。少人数で30人分くらい作ろうと思うと、ずいぶん機能的な道具も

写真9)-1

のハンバーグが焼けます。これも別のハウスの厨房ですが、古いので設備を更新したいとおっしゃっていましたが、かなり学校の給食室のような様相です。

これは、メニューで多分1週間分が張り出されています。大体、1週間分が張り出されるということのようです。

10)このように窓辺に取り置いている食事がありまして、何かと思ったら遅く帰る人のために取ってあるわけです。

写真9)-2

写真11)

たくさん使っています。これはストックルームで在庫しておく粉や調味料があります。キッチンやダイニングルームの隣には子供用のスペースがあって、食べ終わった子が遊んでいたり、大人の邪魔をしないようにお料理している間遊んでいたりする。こういったスペースの住民の手作りで作ってあります。

ここはコレクティブ用にデザインされたキッチンだそうで、真中のところにいろいろなものが集約されていて、なかなか使いやすそうなキッチンになっていました。このようにタイルを使っているようなところもあれば、このように業務用キッチンのようなところもあります。ただ、設備はレストラン厨房に近いようなところもあります。これはコンビオープンというのですが、ホテルなんかで大量に調理するような道具です。1回で30～40個

11)大体、こういう共有のバルコニーなどがあると皆で食べています。ぜんぜん違う家の大人と子が一緒に食べていたり、自由に皆知り合いということで食事をしています。

12)お酒も結構皆さんお飲みになっていますが、ここに座っている方はどなたもご家族ではありません。いろいろな人が集っています。

13)これは後片付けの様子ですが、シャワーで流すような道具や食洗機など業務用で機能性の高い装備があります。

14)食事が終わった後もこうやってしばらく喋っている方もいるんですけども、皆さんさっさと居室に帰ってしまうんですね。日本

みたいにならずとそこにいるわけではなく、終わるとさっと潮が引くようにいなくなって、自分のお宅に戻っていきます。

写真 15)

15) これは洗濯室です。洗濯室は別にコレクティブじゃなくてもスウェーデンの集合住宅では、ほとんど共用の洗濯室がついていて、カード式の仕組みのところもあれば、ただ予約表に書き込むだけのところもあります。気候のせいもあるかもしれませんが、すごく大きなランドリーや乾燥機というのが備え付けになっていて、住戸には洗濯機というのは置かれていません。階段がついているのと同じように集合住宅には洗濯室がついてくるそうです。シーツプレスやアイロンの設備も整っていて、皆おしゃべりしながら繕い物などをしていました。

16) 洗濯室の隣にはブレイルームがあって、皆手作りで、親たちが壁紙を張ったり、マットレスを持ってきたりしたところで子供が遊んでいます。

17) 先ほどはダイニングルームが出てきましたが、これは共同のリビングルーム。また図書コーナーがあったりして、共同で新聞をとっていて(各戸でとっている人もいますが)、朝早く静かに読んでいる方などもいました。

写真 17)

18) これは割と大きな庭があるハウスでしたが、こうして外で静かに本を読んでいる方もおられました。

19) 木工室のようなものがどのハウスにもありまして、設備も皆で揃え合っているのだと思いますけれども、プロはだしの工具が揃っているところも多くて、どこかでもらってきた古い家具をペンキを剥がして塗り替えるんだ、ということを書いていました。週末や夜間にそういうことが好きな人たちがやって来るそうです。

20) ここはアスレチック・ジムで、ここは割とジムらしくなっていますが、ただ体操できるようなマットだけというところもありました。こういうものも揃えているハウスが多かったですね。

21) これは裂き織なんですがスウェーデンは裂き織を皆さんなさるので、機織室を持っているハウスも相当あります。また、いろいろな趣味のスペースやティーンエイジャーのための部屋やテレビ室などを持っているところもありまして、共同にすることにより様々なものが持てるという豊かさを感じられます。

22) これはゲストルームです。来客が来た時に

シーツ代程度で借りて泊まることができます。

は全部キッチンもトイレも備えています。

23) 維持管理を住民がやっていますので、どこも事務スペースを持っていまして、コンピューターやコピー機なども置いてあります。

28) その家のダイニングスペース。

写真 29)

写真 24)

24) これは子供の遊び場です。大人たちが手作りしたそうです。

29) これはずいぶんおしゃれなおうちでしたが、これも個人のダイニングルームです。

25) ガーデニングです。土曜日でしたが、当番のグループが三々五々集まってきて刈り込みをしたり花の手入れをしたり、大体午前10時ごろからお昼ぐらいまでですが、忙しい人は自分の分担をやりとさっさと帰ってしまうし、ゆっくりやっている人もいるし、思い思いにやっています。

30) 建物の外の庭ですが、ご飯の前に庭に出て子供と遊んでいたたり、こういう時間をゆっくり過ごしています。

スウェーデンのコレクティブハウスはこのようなものでした。今、見ていただきましたが、これは決して特殊なものではなく、ごく普通の集合住宅です。

26) エコロジカルな暮らしには皆さん配慮しており、どこのハウスにもコンポストをもっていて、調理場が出た生ゴミもほとんどこういうところで堆肥にして庭に還元していくということをやっています。いろいろなコンポストがあって、これは地下にあっておが屑を混ぜて微生物で処理するのだと思いますが、5ヶ所シャベルで突くのだそうです。

27) これはごく普通の3人家族の住戸です。共用の大きなキッチンはあるのですが、各住戸